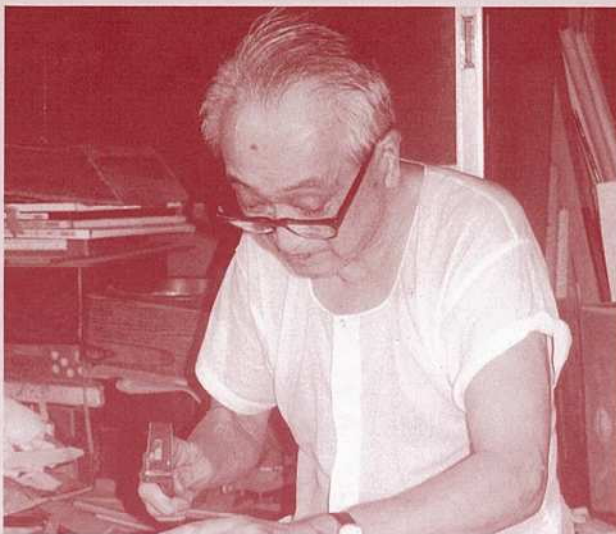


伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



き じ せい ぞう
木 地 製 造

あ さ い て る お
浅 井 輝 夫

(平成8年度作品)

16ミリ映画・ビデオ
カラー・20分

プロフィール

住所、荒川区東尾久1-17-18

大正12年(1923)、東京都生れ。

平成7年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

浅井さんの祖父・寅次郎氏は15歳で神田の挟箱づくり屋へ弟子入りした。小伝馬町で仕事を始め、ともに修業した梅谷氏と弁当箱を考案。二代目父・鉄次郎氏は寅次郎氏について修業し、兄・重吉氏とともに神田富山町で仕事を始め、昭和2年に町屋に移った。三代目にあたる浅井さんは小学校を卒業するとすぐに父について技術を修得し、以来、木地作り一筋に生きている。

注文に応じて主に蕎麦道具、弁当箱などを製作している。江戸漆器の下地となる木地を作るためには、長年の勘をたよりに、漆を塗ったときの厚さを考えて寸法を取らなければならない。木地のほんのわずかな狂いも、漆塗りに響き、きっちり^{けい}と仕上がらないという。浅井さんにとって寸分違わぬ寸法を生み出す当て板、かんな、鋸、野引きなどの道具類は何よりも大切なものである。

企 画
著 作

東京都荒川区教育委員会・制作 株式会社 文化工房

用具・工具

材料（檜^{ひのき}、ヒバ、桐、杉、ラワンなど）、鋸^{のこぎり}（20本）、罫引き（40～50本）、かんな（20丁位）、糸鋸、電気ドリル（かつてはカワギリを使用〈四方キリを加工したもの〉）、当て板、紙ヤスリ、藁だわし、糊（上質の米粒を練ったもの）、物差し、矩尺のみ、木槌、金槌、削り小刀、ノミ、ヘラ、卯木など。

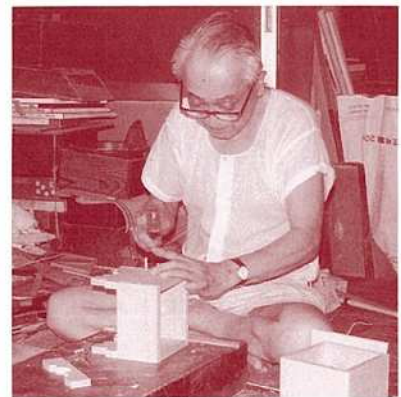
工程 ——引出し附釜場の場合——

- (1) 【木取り】
 - ・材料から必要な長さが取れるように、割れ目や節目を避けて寸法取りをする。
- (2) 【切断】
 - ・板を必要な長さより少し長めに線引きをし、鋸を入れ、おおよその長さに切りそろえる。
- (3) 【かんながけ】
 - ・厚み出しをし、板をかんなで平らに仕上げる。
- (4) 【枘切り】
 - ・削り終えた板に、枘の位置を罫引きする。
 - ・二枚の部材が見合う位置に、凸型の枘と凹型の枘穴を作り、糊で接合する。
- (5) 【組立て】
 - ・組合わせた部分に電気ドリルで穴をあけ、卯木を打ち込み、固着させる。
- (6) 【本体の仕上げ】
 - ・木地をきれいに仕上げるために、水を含ませた藁だわしで表面を湿らせる。
- (7) 【蓋づくり】
 - ・本体と同様、枘を使って組立て卯木で固着させる。
 - ・漆仕上げのとき、本体と蓋がきっちりと収まり側面が平らになるように、寸法を取りながら、蓋の縁を削る。
- (8) 【引出しづくり】
 - ・枘を組立て、底板を糊付けする。
 - ・蓋づくりと同様に、寸法を取りながら、かんなで削る。
- (9) 【仕上げ】
 - ・塗りは塗師に依頼する。

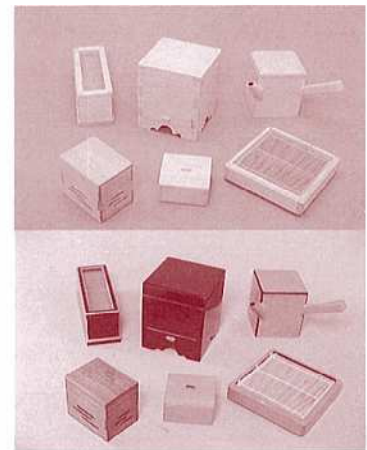
※湯筒の工程については、ページの都合上省略した。



(用具・工具)



(組立て)



(蕎麦道具一式)

この記録〈ビデオテープ〉は荒川区教育委員会社会教育課及び、荒川区内の各図書館で貸し出しています。なお〈16ミリ映画〉は社会教育課及び、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。どちらも貸出期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。但し、〈16ミリ映画〉の貸出には団体登録と16ミリ映写機講習修了者の操作が義務づけられています。

〈問い合わせ先〉

荒川区教育委員会社会教育課・・・3802-3111（内線3358）
荒川図書館・・・3891-4349　町屋図書館・・・3892-9821
尾久図書館・・・3800-5821　日暮里図書館・・・3803-1645
南千住図書館・・・3807-7114